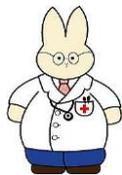


めぐみ在宅地域緩和ケア研究会



NEWS LETTER

2019.3 NO. 139

めぐみ在宅クリニック（在宅療養支援診療所）

〒246-0037 神奈川県横浜市瀬谷区橋戸2-4-3

TEL:045-300-6630 FAX:045-300-6631

自分が誰からも必要とされないという苦しみ

2000年より学校でいのちの授業として伝えて来たことがあります。それは、自尊感情、自己肯定感です。役に立つとき、人は高い自己肯定感を持つことができます。その一方で、役に立たないとき、自分の存在を認めることは容易ではありません。

実際の授業では、1つの物語を通して、試合前にケガをした友人の苦しみを紹介します。

あんなに大好きだったバレーボールですが、自分がチームにいなくても、試合に勝つことができるし、自分なんて、このチームにいなくてもいいのでは？と心が苦しく感じました。

みなさんは、自分なんていなくても、誰も困らないし、いない方がいいと感じたことはありませんか？自分が、誰からも必要とされていないと感じるほど、大きな苦しみはありません。病気の人だけが苦しむのではなく、生きている人みんなが持つ大きな苦しみです。

授業では、ここで大腸がんで闘病されていたNanaさんの話を紹介します。1人で頑張らなくてはいけないと仕事をしていたNanaさんが癌になり治療ができなくなった時に感じたことは、早くこの世から消え去りたいでした。しかし、病気になって多くの人が温かい手をさしのべてくれることに気づきました。子ども達には、その話を通じて、認めてくれる誰かとのつながりの大切さを紹介しています。

その後の展開です。親友が、落ち込んでいる友人の苦しみを反復を使って聴きました。友人は、わかってくれる感じがしました。そして…たとえ今は練習ができなくても、たとえ試合に出られなくても、たとえチームの役に立てなくても、自分のことを認めてくれる友達がいることに気づきました。

「自分のことを認めてくれる誰かはいますか？」

たとえ苦しくても、たとえつらくても、自分を認めてくれる、だれかがいれば、きっと自分が大切に思えるでしょう。たとえ自分が“よくできました”と思えなくても、みなさんのことを認めてくれる誰かとのつながりは、大きな支えになります。自分のことを“これでよい”と認めてくれる誰かとのつながりを大切にしてください。

誰かとは、家族や友人や先生のように見える人とは限りません。亡くなった先祖やペット、人を越えた存在も大きな支えになるでしょう。

いのちの授業プロジェクトを展開するためにエンドオブライフ・ケア協会では、仲間を募集しています。4月14日に東京でイベントを企画しています。

詳細はエンドオブライフ・ケア協会のHPまで。このテーマが広がることを祈っています。 小澤竹俊

報道ステーションにてオンエア

2月26日に、報道ステーションの取材で松岡修造さんがクリニックにお見えになりました。訪問診療に同行され、午後インタビューをしていただきました。そして3月18日（月）のテレビ朝日報道ステーションでオンエアされました。取材にご協力いただきました皆さまに感謝申し上げます。



ピア ~まちをつなぐもの~

2019年3月19日、人気映画「ケアニン」のスピニアウト作品として「ピア～まちをつなぐもの～」の完成披露試写会が都内で開催されました。主人公の雅人医師は、治療のエリート医師から、地域で活動する医院に戻ることになりました。地域包括ケアシステムとして、多職種連携の様子や、看取りに至る援助のプロセスが描かれています。企画段階から、めぐみ在宅クリニックとしても協力させていただいております。エンドロールでは、めぐみ在宅クリニックで関わっている川口美怜さんと家族との写真が紹介されます。是非、劇場をご覧ください。

診療実績

	2006-2017年	2018年計	2019年1月	2019年2月	2019年計	総計
訪問回数	60,086	10,667	880	583	1,463	72,216
自宅永眠	1,985	267	21	17	38	2,290
施設永眠	281	68	4	3	7	356
在宅 (自宅+施設)	2,266	335	25	20	45	2,646
病院永眠	594	117	14	5	19	730